

第5学年 総合的な学習の時間 指導案

1. 単元名 「SDGsについて考えよう」

○学習指導要領 総合的な学習の時間 第5学年の内容とのかかわり

- ・総合的な学習の時間の1つのテーマである「SDGsについて考えよう」の学習にあたり、学級活動、理科、社会、道徳など複数の教科内容を交えた教科横断的に探究的な学習を行っていくことにより、人とのつながり、自然とのつながりについて、日々の生活の中でのSDGsとのつながりについて理解し、自分ができるSDGsの取組みを考えることができる。

【教科横断的な学習による各教科の内容とのかかわりについて】

○学習指導要領 学級活動 第5学年の内容とのかかわり

- ・内容(1) 学級や学校における生活づくりへの参画における、イ 学級内の組織づくりや役割の自覚、ウ 学校における多様な集団の生活の向上が図れることにより、〇〇〇〇〇小学校5年生のスローガンである「〇〇〇〇」が実現できる。

○学習指導要領 理科 第5学年の内容とのかかわり

- ・内容B 生命・地球、(3) 流れる水の働きと土地の変化、アの(ウ)の、自然災害について、水の災害を防ぐ役割のあるダムを実際に見学することにより、長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害から自分達を守る役割があることを知り、普段の生活へ意識を向けることができる。

○学習指導要領 社会 第5学年の内容とのかかわり

- ・内容(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、ア(イ)、(エ)、イ(イ)などの内容について、自然体験学習(林業体験)を通して、自然環境と自分達の生活が密接に結びついていることを知り、森林が果たす役割について考えることができる。

○学習指導要領 道徳 第5学年の内容とのかかわり

- ・内容D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること、(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすることの自然愛護について、自分たちの生活を振り返り、自然との共存について、自分たちができることについて考えることができる。

2. 単元の目標・評価規準

体験活動と関連させながら、森林資源が果たす役割や環境保全について、また、SDGsについて理解を深めることができる。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中での SDGs とのつながりについて理解し、自分ができる SDGs についての課題を設定することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の生活の中での SDGs とのつながりについて理解し、自分ができる SDGs についての課題を設定している。</li> <li>体験活動等を通して、自分の生活を見直し、問題の解決に向けた学習計画を立てている。</li> </ul>
思考力・判断力 ・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集した情報を必要に応じて取捨選択・整理し、また、体験活動等を通じて、自分たちにできる SDGs について考えるために活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集した情報を必要に応じて取捨選択・整理し、自分たちにできる SDGs について考えるために活用している。</li> <li>体験活動の経験を、自分たちにできる SDGs について考えるために活用している。</li> </ul>
学びに向かう力 ・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習、体験活動を通じて、SDGs について自分ができることを考え、よりよい解決に向けて工夫しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定した活動に目的意識をもってねばり強く取り組み、よりよい解決に向けて工夫しようとしている。</li> <li>調べ学習、体験活動を生かして、自分の生活を見直し、自分ができることを主体的に考えようとしている。</li> </ul>

### 3. 単元構想

#### (1) 集団宿泊活動として学習することのよさ

大滝げんきプラザでの、自然を生かした体験が「主体的な学び」の基礎となる。現在、Society5.0（超情報化社会）により、児童は情報を通じた自然に対する疑似体験を簡単に行うことができる。しかし、実体験を伴った経験に勝るものはなく、多くの実体験は、実際に経験したことは自信につながり、自己肯定感を高めることができる。自己肯定感を高めることができる自然体験学習を提供したい。

大滝げんきプラザで行う自然体験は、子供同士の協働が多く場面が必要となる。学校生活での集団活動では経験することのできない初めての体験に対して、子供同士の協働の場面を設定することができる。1つ1つの活動は、「よりよい人間関係を形成」することにつながる。そして、自然体験を通して、「対話的な学び」ができる学年・学級づくりにつなげていきたい。

自然体験に対して、学校で行う事前学習は大切である。事前学習を通して学んだ知識・技能を学習の見通しに活かし、子供が主体的に考え、課題意識を持つ。そのような意識を持ち



	○活動内容 ・目標				
	総合的な学習の時間	学級活動	理科	社会	道徳
全体の目標	・体験活動と関連させながら、森林資源が果たす役割や環境保全について、また、SDGs について理解を深めることができる。				
単元目標	SDGs について理解し、自分でできる SDGs の取組みを考える。	練習してきた成果を発揮して、学年・学級の絆を深める。	川の水による災害や災害に対する備えについて調べ、災害に備えることの重要性を考える。	森林にはどのような働きがあり、森林資源はどのように利用されている考える。	自然破壊と環境保全についての問題と自分との関りを理解し自然との共存を考える。
【事前学習】	<p>○学習の見通しの把握(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊学習を通して、どのような活動があるのか知ることができる。</li> </ul> <p>○SDGs について調べよう(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・17 のキーワードがあることを知り、どのような取組がされているか知り、まとめることができる。</li> </ul> <p>○大滝げんきプラザでの学習を知ろう(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊学習では、どんなことを行うのか知り、自主的に活動する心構えを持つことができる。</li> </ul>	<p>○キャンプファイアの練習(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクのルールを知り、安全に活動ができる。</li> </ul>			<p>○自然愛護「もったいない」(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を守る心を育み、大滝げんきプラザでの体験活動と結びつけることができる。</li> </ul>

<p>【体験学習】</p>	<p>①薪割り体験(2) ・森林資源の視点を持ち、安全に気を付けて、薪割り体験をすることができる。</p> <p>②屋外炊事でのカレーライスづくり(3) ・自分たちで作った薪を使い、安全に気を付け、班で協力し、カレーライスづくりができる。</p> <p>④焼き板体験(2) ・安全に気を付け、自分だけのオリジナルの焼き板の作品を作ることができる。</p>	<p>③キャンプファイア(2) ・練習してきた成果を発揮して、学級・学年の絆を深めることができる。</p>	<p>○ダムの見学(2) ・ダムの働きとして、治水、利水、発電があることを知ることができる。</p>		
<p>【事後学習】</p>	<p>○焼き板の仕上げ(1) ・一生の思い出に残る作品を仕上げることができる。</p> <p>○お礼の手紙(1) ・大滝げんきプラザの職員に、感謝の気持ちを伝えることができる。</p> <p>○大滝げんきプラザで経験したことやSDGs 自分ができることについて新聞にまとめ、発表しよう(4) ・宿泊学習を通じて、身に付けた力やSDGsについて自分が身近にできることをまとめることができる。</p>		<p>○流れる水のはたらき・わたしたちのくらしと災害(1) ・学習したダムの働きを想起し、川の水による災害や災害に対する備えについてまとめることができる。</p>	<p>○わたしたちの生活と森林(1) ・森林のはたらきについて、大滝げんきプラザで体験したことを生かし、自分たちの生活とのつながりをまとめることができる。</p>	

### (3)「主体的・対話的で深い学び」の視点

#### 1) 主体的な学び

##### ①目指す子供の姿

- ・薪作り体験活動や焼き板体験活動では、事前学習にて、薪作りを行う意義、SDGs とのつながりや森林資源が果たす役割や環境保全について主体的に考えることができる。
- ・大滝げんきプラザでのそれぞれの体験活動において事前学習し、体験の流れを把握し、児童にしっかりと役割分担をさせ、自分の役割がわかることにより、責任感を持って主体的に活動に取組めるように指導する。

##### ②指導のポイント

- ・薪割り体験活動では、所内で間伐した木材を用いて、薪作り体験を行う。また、焼き板体験活動では、秩父市内の材木店から購入した木材を製材した際に出る端材を活用した作品づくりであり、両体験活動とも森林資源の活用をしていることに気づかせるよう指導する。
- ・大滝げんきプラザでの体験学習について、事前学習を行い、子供達の分からないところや不安なところを解消することにより、意欲的・主体的に体験活動を行うことができるように指導する。

#### 2) 対話的な学び

##### ①目指す子供の姿

- ・事前学習において、児童1人1人がそれぞれの体験活動において班での役割分担について進んで話し合う姿を目指す。
- ・活動中、困っている友達に声をかけ、お互いに協力し合いながら活動でき、活動内容で修正が必要な場合には、その場で班の中で話し合い、決定できる姿を目指す。

##### ②指導のポイント

- ・体験活動では多くの場面で子供同士の協働の場面が設定できる。それぞれの体験活動に取組む前に、事前学習において班の中での役割分担について確認する時間を設定する。班の中で、児童が進んで平等に役割分担ができるように指導する。
- ・体験活動の前に、班の中での役割分担の確認、友達の役割内容の再確認を行うことにより、お互いに声を掛け合いながら活動するように指導する。

#### 3) 深い学び

##### ①目指す子供の姿

- ・事前学習を通して学んだ知識・技能を大滝元気プラザでの体験学習の際に想起し活かし、児童自身が主体的に考え、活動できる姿を目指す。
- ・事後学習において、大滝げんきプラザでの活動について振り返り、自分の生活の中で行うことができるSDGsについて考えることができる姿を目指す。

##### ②指導のポイント

- ・大滝げんきプラザの職員と密に連絡を取り合い、各体験活動の流れや注意点を把握する。事前学習において、児童の役割分担を明確にすることにより、児童が主体的に活動できるよう指導する。
- ・事後学習において、自然体験学習について振り返りを行い、自分ができるSDGsの取組

について考え、新聞にまとめ、学習内容の深化を図れるよう指導する。

#### 4. 青少年教育施設での展開【総合的な学習の時間（時数7時間）、学級活動（2時間）】

##### （1）ねらい

集団宿泊学習において、班や学級、学年で協力し絆を深めながら活動を行うことができるようにする。また、事前学習した大滝げんきプラザでの体験活動について、森林資源のSDGsの視点で活動ができるようにする。

##### （2）展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
体験活動① 薪割り体験 【総合的な学習の時間】			
めあてを確認し、活動の内容を確認する。	1. 活動内容の確認をする。	◎薪割り体験ではどんな活動を行うのか、事前学習の内容を想起し、しおりを活用しながら伝える。	10分
森林資源の視点を持ち、安全に気を付けて、薪割り体験をすることができる。			
職員の活動に関する説明を聞く。	2. 活動の諸注意を聞く。	◎鉋(なた)等の刃物を使うので、真剣に活動に取り組むように指導者の話を聞くように伝える。	
薪割り体験を行う。  つくった薪を、運びやすいように、束ねる。	3. グループごとに薪割り体験を行う。 ①丸太をのこぎりで切る。 ②薪割り台の上に置き、斧で大きく割る。 ③手斧で細かく割る。 ④薪たがに入るだけ薪を入れる。	◎グループ間の距離を十分にとり、安全に活動できるように指導する。 ◎安全に鉋等の道具を使っている児童を称賛し、グループに安全な道具の使い方を周知させる。 ◎全体に周知しなければならない行動があった場合は、全員の活動を止め、情報の共有化を図る。	70分

活動の振り返りを行う。	5. しおりの振り返りカードを用いながら活動の振り返りをする。 6. 感想の発表、学習の深化を図る。	◎体験した活動具体的に感じたことや分かったことを記入するように指示する。 ◎グループで、一人一人自分の感想を発表し、情報の共有化を図る。その後、全体で数人、感想の発表を行う。	10分
活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
体験活動② 屋外炊事でのカレーライスづくり 【総合的な学習の時間】			
めあてを確認し、活動の内容を確認する。	1. 活動内容の確認をする。	◎事前学習の内容を想起し、しおりを活用しながら伝える。	10分
自分たちで作った薪を使い、安全に気を付け、班で協力し、カレーライスづくりができる。			
	2. 活動の諸注意を聞く。	◎職員からの屋外炊事を行う道具、場所、注意点の説明をしっかりと聞くように指導する。	

<p>屋外炊事でのカレーづくりを行う。</p> <p>カレーライスができた班から黙食で食べる。</p> <p>食べ終わった班から、片づけを行う。</p>	<p>3. 各役割の仕事を行う。</p> <p>カレー係</p> <p>①野菜を洗い、切る。</p> <p>②カレー鍋で野菜を炒める。</p> <p>③水を入れる。</p> <p>④カレールーを入れる。</p> <p>飯盒係：</p> <p>①お米を洗う。</p> <p>②水を図り、飯盒に入れる。</p> <p>③かまどでご飯を炊く。</p> <p>かまど係：</p> <p>①かまどに薪を組む</p> <p>②焚きつけ材に火が付いたら、太い薪を入れる。</p> <p>③強火を保つように薪を入れる。</p> <p>4. カレー、飯盒ができあがったら、皿に盛り付け、班ごとに食べる。</p> <p>5. 食べ終わった班から、片づけを始める。</p>	<p>◎カレー係、飯盒係、かまど係など、班ごとに役割分担を確認してから作業を始める。</p> <p>◎早く火をつけすぎると、薪が足りなくなってしまうので、カレー係・飯盒係に声をかけながら、かまど係に、火起こしを行うように指示する。</p> <p>◎カレー鍋、飯盒は、皿に盛り付け終わったら、水につけておくよう指示する。</p> <p>◎片付けの際、次の人が使うことを考え、きれいに道具を洗ったり、場所をきれいにしたりするように指導する。</p> <p>◎洗い終わった道具は、事前に職員から指示のあった場所に戻すように指示する。</p>	<p>1 1 5 分</p>
<p>活動の振り返りを行う。</p>	<p>5. しおりの振り返りカードを用いながら活動の振り返りをする。</p> <p>6. 感想の発表、学習の深化を図る。</p>	<p>◎体験した活動具体的に感じたことや分かったことを記入するように指示する。</p> <p>◎グループで、一人一人自分の感想を発表し、情報の共有化を図る。その後、全体で数人、感想の発表を行う。</p>	<p>1 0 分</p>
<p>活 動</p>	<p>具体的な活動内容</p>	<p>指導上の留意点</p>	<p>時間</p>
<p>体験活動③ キャンプファイアで仲間づくり 【学級活動】</p>			

練習してきた成果を発揮して、学年・学級の絆を深めることができる。			
活 動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
第1部 儀式の火	1. 「遠き山に日は落ちて」をハミングで歌い、彼の神様の入場を待つ。  2. 火の神様から、火の子が5つの火をもらう。 ・勇気の火      ・意志の火 ・希望の火      ・感謝の火 ・友情の火  3. 「燃えろよ、燃えろ」を歌う。	◎キャンプファイア係を中心に、児童だけでキャンプファイアを運営できるように指示を出す。  ◎火の子に、火の神様から分火される時は、トーチ棒が45度の角度で持つように指導する。  ◎キャンプファイア薪に火が付いたら、近づかないように指示を出す。	10分
第2部 交歓の集い	4. 児童を中心に楽しくゲームを行う。 ①声だしゲーム ②猛獣狩り ③餃子じゃんけん ④キャッチ ⑤ぴよぴよちゃん ⑥ジンギスカン ⑦1分間ゲーム	◎司会の児童を中心にキャンプファイアを運営する。ファイアキーパーと音楽は先生が担当する。  ◎ゲーム中、絆を深めるためにマイナスの言葉を使わないように事前指導しておく。	65分
第3部 分火の火	5. 火の神様から、児童全員に火の分火を行う。	◎分火された火を、隣の児童にまわしていく時、火傷に気を付ける。	15分
体験活動④ 焼き板体験 【総合的な学習の時間】			

めあてを確認し、活動の内容を確認する。	1. 活動内容の確認をする。	◎事前学習の内容を想起し、しおりを活用しながら伝える。	10分
安全に気を付け、自分だけのオリジナルの焼き板の作品を作ることができる。			
	2. 活動の諸注意を聞く。	◎職員からの焼き板を行う道具、場所、注意点の説明をしっかりと聞くように指導する。	
焼き板体験を行う。  絵付けを行う。	3. 班ごとに分かれて、焼き板体験を行う。 ①板を選ぶ。 ②かまどで火起こしをする。 ③板を焼く。 ④たわしでこする。 ⑤布で磨く。 ⑥ヒートンと紐をつける  4. できた焼き板に、ペンでデザインを描いていく。	◎かまどで火付けを行う児童として、屋外炊事のかまど係以外の児童が挑戦できるように指示を出す。 ◎板を焼いた直後は熱いので、しっかりと冷めてから板をたわしでこするように指導する。 ◎焼き板のデザインは、宿題で事前に考え、しおりに描いてくる。そのデザインを焼き板に写していくが、サイズや形によっては、デザインを変えてもよい指示を出す。	70分
活動の振り返りを行う。	5. しおりの振り返りカードを用いながら活動の振り返りをする。  6. 感想の発表、学習の深化を図る。	◎体験した活動具体的に感じたことや分かったことを記入するように指示する。 ◎グループで、一人一人自分の感想を発表し、情報の共有化を図る。その後、全体で数人、感想の発表を行う。	10分

### (3) 評価規準

- ・大滝げんきプラザでの体験活動等を通して、自分の生活を見直し、問題の解決に向けた視点で取り組むことができる。(知識及び技能)

- ・体験活動の経験を、自分たちにできる SDGs とつなげてしおりに感想等をまとめることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・調べ学習、事前学習したことを生かして、自分にできることを主体的に考え、班や学級の児童と協働して活動することができる。(学びに向かう力・人間性等)